

こころの便り

第283号
令和5年10月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志
kminami@shingu.co.jp
電話 079-1-75-1212



新宮運送ホームページ

内から崩れる

心地よい風と澄んだ青空に秋を感じるとてもいい時期が、年々短くなっていきます。段々と夏と冬だけになってしまおうのではないかと地球温暖化を考えていると、人間が地球に存在することで環境破壊を進めてきた歴史が文明の進化なのかと悩ましく思ってしまう。

現実の世の中は厳しくて、生きるか死ぬかの選択をしながら時間が流れているともいえません。人間はその厳しい大自然の中で理想を持ち、あるべき姿を描きながら実行に移していくことのできる唯一の存在でもあるのです。しかしながら、目先の利益ばかりを追いかけてきた近代社会は、自然破壊ばかりを繰り返しながら人間にとっての便利さを追い求めてきました。その結果、クローンという仮想の命を生み出したり、思いを伝えてロボットを動かしたりするような進化を生み出しています。このままいくと、地球も宇宙も破壊されていくのではないかと素人の私でも想像がつかず。人間は常に矛盾する世の中を生き抜いていくために、自らを磨き上げていく努力をしなければなりません。それは、片方に偏ってしまうことがとても危ういということを知っていたからだと思います。

私たちの先祖は、自分たちだけが生き延びることではなく、自然への畏れや報酬となる実りに感謝を捧げてきました。それがお祭りでもあるわけですね。

一見ムダに見えるようなことに懸命になつて取り組む、自分の周りの人を喜ばせる、小さなことに気づいて自らが行動することを立派なことであると顕彰してきました。特に、日本人は世界のどの民族からも優れているところをたくさん持っています。しかし、自らそれを見つけないことをせず、逆に否定していくことで泥沼にはまり込むように埋もれてしまっています。

「良い世の中を子供たちに残していく」ただそれだけのことを実行してきた先人たち。来た時よりも美しく」と呼び掛けて、行動してきた私たちがやるべきことは実行して伝えることでしょうかありません。

崩れゆく日本を立て直す力は、一人ひとりにかかっています。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

尋常小學校國史 上巻

第八天智天皇と藤原鎌足 ①

大化の新政をたすけ行ひたまふ
やがて皇極天皇は御位を御弟第三十孝徳天皇にゆづりたまひ、中大兄皇子は其の皇太子となりたまへり。皇太子は天皇をたすけたまつりて、大いに政治を改め、これまで勢あるものが多くの土地をもちて、ほしいままに人民を使ひたりし習はしをよめて、これ等の土地を大化の新政といふ。大化とは、此の時定められたる年號にして、之を年號の始とし、其の元年は紀元一千三百五年にあたり。

兵を出して百濟をすくはしめたまふ

孝徳天皇崩じたまひて、皇極天皇再び御位に即きたまふ。之を第七十齊明天皇と申す。中大兄皇子はなほ皇太子として、引きつゞき政治にあづかりたまへり。此の頃支那は唐の代にて、勢甚だ盛なりしが、新羅は其の助をかりて百濟をほろぼさんとせしかば、百濟の人々すくひを朝廷にこへり。皇太子すなはち天皇を奉じて九州におもむきたまひしが、天皇間もなく行宮に崩じたまひしかば、皇太子つぎて立ちたまふ。第八十天智天皇これなり。天皇兵を出して百濟をすくはしめたまひしに、我が軍利をうしなひ、百濟は程なくほろびしかば、天皇はなかく我が軍を海外に勞することの不利なるを見たまひ、遂に之を引上げしめたまへり。ついで高麗もまた唐にほろぼされ、新羅ひとり威をふるふに至り、これより朝鮮は全く我が國よりはなれたり。されど唐とは此の後もなほ交を絶たざりき。

國內の政治を新にしたまふ

これより天皇はもつぱら御心を國內の政治に用ひたまひ、都を近江にうつし、鎌足をして、いろく新しき法令を定めしめたまへり。此の法令は、後に第四十文武天皇の大寶年中に至りて大いに改められ、之を大寶律令といひ、此の後ながく政治の本となれり。

大寶律令

つづく